



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和7年 3月 26日
第 14 号
さいたま市立日進中学校
TEL 048-663-1251
FAX 048-663-0834

『日進中 前へ!』

校長 小熊 誠

今日で3学期が、そして後5日で令和6年度が修了です。本年度も日進は様々なことがありましたが、保護者・地域の皆様のおかげ様をもちまして、何とか修了式を迎えることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

3月14日(金)、第78回卒業証書授与式が厳かに挙行され、262名の卒業生が立派に日進を巣立っていきました。黄色学年の魂のこもった素晴らしい式となりました。式を迎えるに当たり、前日の13日(木)の練習で、私は以下の2点を3年生と約束しました。

1. 私は、小学校も中学校も息子の卒業式に参列できなかった。だから、卒業証書は、自分の息子に渡すつもりで、262名一人ひとりに向き合っている。是非壇上で、目と目を合わせて、笑顔で渡したい。子どもの卒業を祝う「親」の思いを味あわせて欲しい。
2. 今ここに皆が居ることは当たり前ではない。「親」がいたからこそ存在できている。でも「親」とは中々向き合えない。明日はいい節目の日。「親」に「ありがとう」と言って欲しい。言えなかったら、何か感謝の思いを伝えて欲しい。それも厳しかったら、壇上でしっかりと顔をあげて、堂々と真っすぐに立ち、今自分がここに居るということを証明して欲しい。

式当日、3年生全員と壇上で目と目を合わせることができました。そして中には私の「おめでとう」の言葉かけに笑顔だけではなく、小声で「ありがとう」や「大好き」と返してくれる生徒たちもいました。私が、校長として式に臨むのは7回目。壇上で生徒全員と目と目を合わせて言葉を交わせたのは初めての経験となりました。息子262人の親の思いを感じられ幸せな時間となりました。そして何より、生徒たちは、呼名の返事は基より、壇上で堂々と正面を向いて、「親」に自分の存在を示すことができました。素晴らしい生徒たちです。きっと、言葉の種類は分かりませんが、「親」に何かしら感謝の思いも伝えられたと思います。本当に皆の思いのいっぱい詰まった素敵な式になりました。ありがとうございました。そして、さらに嬉しいことがありました。それは、卒業生から「日進中 前へ!」が、いつも私を奮い立たせてくれます」と、「日進中 前へ!」と記された手書きの色紙(右)を貰ったことと、「入学式の私の式辞で、皆の「日進劇場」は「挨拶」が開幕の合図だと聞いたときから、「挨拶」を頑張ってきた。「日進劇場」大好きでした。」と記された手紙も貰ったことです。心と体が震えました。そして、重い責任と遣り甲斐を再確認しました。

私たちの使命は、「私たちの宝である、生徒たちを、守り、磨き、輝かせ、共に未来を創っていくこと」です。私たちの言動は、生徒たちに大きな影響を与えます。だからこそ、私たちは学び続けなければなりません。皆様、日進の素晴らしい生徒たちを、さらに輝かせ、「学校の主役から地域の主役」へと羽ばたかせるためには、やはり私たちの力が必要です。そこで、もう一つ、私の大好きな言葉(右)が浮かびました。それは、私の「親」からもらった私の名前です。辞書で引くと「嘘、偽りのない真心」とあります。生徒たちをさらに前へ、進化させるためには、「自分にも、家族にも、生徒たちにも、仲間にも、周りの方々にも」、「嘘、偽りのない真心」で接していくことが、自分の心に、真心に正直であることが必要です。「誠のある人であれ」必ずそれが、「メガ進化」へと繋がる次なる一步となるはずです。

保護者・地域の皆様、令和7年度も、御理解と御協力、そして温かい御支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。そして日進の輝きに御期待ください。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校

